

2023 年 6 月 19 日(月)

教育実習生に学ぶ

学校にとって、6 月という時期は大きな学校行事もなく、落ち着いて学びに取り組むことができ、多くの学校で教育実習生を迎えています。昨今、「教員不足」「教員のなり手が少ない」ことがニュースにもなっていますが、本校では今年、「情報」「音楽」「養護」と 5 名の教育実習生を迎え、先週の土曜日に無事に終わりました。

今年の特徴は、本校卒業以外の方々を半数迎えたこと、実技系の教科が中心ということです。この 3 週間の彼らの様子に接しながら、私自身教師としてスタートした 40 年前を思い出しつつ、新たな発見を得ることができました。ただ、いずれの教科も新しい学習指導要領が始まり学習内容がかなり高度になったことに驚きました。実習生たちも、自身が学んだ中学高校時代とは比べものにならないほど内容が変わったことで予想以上の教材研究の時間を要したことと思います。教授法においては、経験と知識量の不足から先輩教員に叶わないことは自明であり、先生方から毎日多くの指摘がなされ、時には落ち込んだり悩んだりしたこともあったと思います。また、生徒とのコミュニケーションの取り方にも多くの課題を感じたことでしょう。

ただ、従来と比べて、実習生の数が少なくなった分、本気で教員を目指していることを素直に嬉しく思いますし、この経験を通して教員の魅力を再発見してもらいできれば幸いです。毎朝の教職員打合せでは、「たとえ荒削りであったとしても若さは武器」であり、先生方にも若いころの情熱を思い出し、実習生からエネルギーをもらい、さらなる革新を目指してもらいたい」と、伝えました。それが歴史の浅い「しなやかに変化し続ける学校」の魅力だと思います。

私自身、大学で地理学を教えています。1 回 115 分の講義の準備に毎回 10 時間以上の準備をかけてのぞんでいます。ブラックな職場、教員不足が取り沙汰されてはいますが、新しい学びと出会い、学びを深めることが教師としての魅力でもあり、個性の異なる生徒との出会いも楽しみの一つです。

教育実習生の皆さんも、目標達成に向かって残りの学生生活の中で努力を重ね、ぜひ教師としてなって羽ばたいてください。

校長 石飛 一吉